

2021年1月5日

女子体操競技情報 30号

(公財) 日本体操協会
東京オリンピック強化委員会
女子体操競技強化本部
審判委員会体操競技女子審判本部

日本体操協会では、東京オリンピック強化委員会体操競技女子強化本部による2021年強化指針と審判委員会体操競技女子審判本部による2021年採点指針をここに通達し、この通達をもって適用といたします。

2021年 強化指針

東京オリンピック強化委員会
女子体操競技強化本部長
田中 光

全体として

東京オリンピックが一年延期となり、世界中が新型コロナウイルスの蔓延で混沌としている状況が続いていますが、私たちは漸進していかなければなりません。

東京オリンピックに向けては、昨年と同様に特に平均台とゆかのジャンプ系の強化を遂行していきます。また、次世代の選手は2024年パリオリンピックに向けて、基本に忠実で正確な技術からなる「美しい体操」を目指すとともに「段違い平行棒の高難度の技の習得」「タンブリング、跳馬技術の向上」や芸術性の高い演技を目指した「コレオプログラムの充実」に取り組みたいと思います。

一意専心の精神で五輪メダル獲得に向けて突き進む強い思いをもとに、ここに強化指針を掲げます。

◆東京オリンピック 代表選考競技会◆

強化目標

- ①団体でのメダル獲得
- ②個人総合でのメダル獲得
- ③種目別でのメダル獲得

★Dスコアを上げながらも正確な技の実施でEスコアを上げることを第一として強化

★団体メダル獲得基準 167.000・個人総合メダル獲得基準 56.000 を超える強化

★特に平均台とゆかでメダルを獲得するための強化

<跳馬>

Dスコア 5.40 以上の技は必須。積極的に D 5.60、D 5.80、D 6.00 の技に取り組む。

チェンビチナ（前転とび～前方伸身宙返り 1½ひねり）・アマナール（ロンダート後転とび～後方伸身宙返り 2½ひねり）などの高いDスコアの跳躍技を推奨しつつも、美しい姿勢と正確で完成度の高い跳躍を目指す。

<段違い平行棒>

高難度の手放し技の実施、組み合わせ点を多く得られる演技構成を推奨しつつも、美しい姿勢と正確で完成度の高い演技を目指す。また、高い着地姿勢の習得を含めた終末技の熟練度を高める。

<平均台>

高いDスコアの演技を推奨しつつも、技の正確性と全習での安定感を最重要視し、美しい姿勢と正確で完成度の高い演技を目指す。特にジャンプ系の高さや姿勢を改善する。

<ゆか>

高いDスコアの演技を推奨しつつも、美しい姿勢と正確で完成度の高い演技を目指す。ひねりを伴う技のひねり不足や、ダンス系の技のジャンプの高さ不足、柔軟性、ターンの正確性、アクロバット系の技の高さ、着地姿勢、演技全体の表現力を改善し、確実に8.20以上のEスコアを獲得できる演技を目指す。

◆代表選考会を除くすべての国内競技会◆

強化目標

- ①徹底的に基本を見直し、どの技においても姿勢欠点のない実施を身に付ける
- ②高いEスコア・Dスコアの演技を目指す

- ★Dスコアを上げながらも正確な技の実施でEスコアを上げることを第一として強化
- ★美しい姿勢での正確な技の実施につながる強化

<跳馬>

積極的にDスコア5.40以上の技に取り組む。

D 5.80のチェソビチナ（前転とび～前方伸身宙返り1½ひねり）やD 5.60の伸身ツカハラとび2回ひねりにも取り組んでもらいたい。

<段違い平行棒>

美しい姿勢で正確な技の実施を第一とする。手放し技の難度を上げ、組み合わせ点を効率よく得られる構成を練る必要がある。また、シュタルダーや閉脚浮腰回転倒立などの回転系の技での倒立姿勢の減点は非常に大きいため、熟練度を高める。終末技は、D難度以上の高難度技の習得に積極的に取り組んでもらいたい。

<平均台>

美しい姿勢で正確な技の実施を第一とする。技の正確性と全習での安定感を最重要視する。特にジャンプ系の技の高さと姿勢を改善したい。

<ゆか>

美しい姿勢で正確な技の実施を第一とし、さらに高難度のアクロバット系の技の習得に積極的に取り組んでもらいたい。基本技、基本の動きの見直しを図り、ひねりを伴う技のひねり不足や、ダンス系の技のジャンプの高さ不足、柔軟性、ターンの正確性、アクロバット系の技の高さ、着地姿勢、演技全体の表現力を改善していき高いEスコアを目指す。

2021年 採点指針

審判委員会体操競技女子審判本部

全体として

昨年、コロナウィルスの世界的大流行により、2020 東京オリンピックの1年延期が決定され、国内外の各種競技会も中止や延期を余儀なくされることとなりました。事態の終息はまだ見えてこない状況ですが、強化と審判とが一体となって1年延期となった東京オリンピック、2024年パリオリンピックに向けて粛々と選手強化を進めていかなければなりません。東京オリンピック強化本部から提示された目標を達成するために、昨年の指針を踏襲し東京オリンピックの代表選考に関わる競技会と、それを除くすべての競技会に分けた指針を掲げます。2024年パリオリンピックまではすでに4年を切っています。特に次世代の選手には、立つ、歩くなどの基本的な動作やけ上がり、振り上げ、難度の低いジャンプ、ターンなど基礎的な技が欠点のないより美しい姿勢で実施できることを徹底的に身に付けてもらいたいと思います。国内すべての競技会において、欠点のない美しい姿勢での実施を高く評価し採点をしていきます。

◆東京オリンピック 代表選考競技会◆

東京オリンピック代表選考競技会では以下の3項目を採点上の最重要項目とし採点をします。

対象競技会：第75回全日本個人総合選手権大会、第60回NHK杯、第75回全日本種目別選手権大会

- ① 欠点のない美しい姿勢での正確な技の実施
- ② 安定感のある技の実施による完成度の高い演技
- ③ すべての技の実施において、着地の先取りができた高い体勢での安定した着地

各種目について

日本の現状を踏まえて望ましい演技として評価する方向性を以下のように示す。

<跳馬>

- 高さや距離を伴うスピード感のあるダイナミックな跳躍
- 着地の体勢が高く、安定した着地
- 姿勢欠点のない完成度の高い跳躍

【採点上の留意点】

- ダイナミックさに欠ける跳躍については、跳躍の大きさだけでなく、技の難易度から受ける迫力や雄大性などを加味し、第10章 跳馬「種目特有な実施減点」の「ダイナミックさに欠ける (0.10/0.30)」の減点項目に則り、明確に差をつける。
- 着地の先取りがなく着地が乱れたり、低い着地姿勢になる完成度の低い跳躍については、第8章「一般欠点と減点表」、第10章 跳馬「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

<段違い平行棒>

- 腕の曲がりや膝、つま先の緩みのない美しく伸びた体線での正確な技の実施
- 技の振幅が大きいダイナミックな演技
- 空中局面を伴う技の雄大な実施
- 終末技の高い体勢での安定した着地

【採点上の留意点】

- 上記指針の内容に沿わない姿勢欠点のある実施、未完成な演技に対しては、第8章「一般欠点と減点表」、第11章 段違い平行棒「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- け上がり、倒立などの基本技の姿勢においても注視し、膝やつま先の緩みが見られる実施や、身体の姿勢が悪い実施に対しては、第8章「一般欠点と減点表」、第11章 段違い平行棒「種目特有な実施減点」の「倒立、または振り上げ倒立の身体の姿勢が悪い (0.10/0.30)」の減点項目に則り減点をし、明確に差をつける。

<平均台>

- アクロバット系、ダンス系の技が正確で熟練された演技
- 立ち姿勢、つま先まで意識された常に美しい姿勢での演技
- 技の前の「調整」や「停止」のない流れのある演技

【採点上の留意点】

- ダンス系の技は特に注視し、姿勢欠点のある実施、正確さに欠ける実施には「身体の姿勢の減点 (0.10/0.30/0.50)」、「高さ (0.10/0.30)」、「正確さ (0.10)」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- 頭部や胴体、肩、腕の位置が悪い、つま先が伸びない、足が内向き、つま先立ちでの運動や動きに欠ける演技に対しては、「演技全体を通して身体の姿勢が悪い」の減点項目に則り、減点をする。
- 上記指針の内容に沿わない演技に対しては、第8章「一般欠点と減点表」、第12章 平均台「芸術性と構成の減点」、「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、明確に差をつける。

<ゆか>

- アクロバット系、ダンス系の技が正確で熟練された演技
- 着地の体勢が高く、安定した着地
- 立ち姿勢、つま先まで意識された常に美しい姿勢での演技
- 演技面を大きく使い、流れのあるダイナミックな演技
- 観衆を魅了することができる芸術作品として完成度の高い演技

【採点上の留意点】

- 着地の先取りがなく着地が乱れたり、低い着地姿勢になる実施については、第8章「一般欠点と減点表」の減点項目に則り、**厳密に減点**をする。
- ダンス系の技は特に注視し、**姿勢欠点のある実施**、**正確さに欠ける実施**には「身体の姿勢の減点 (0.10/0.30/0.50)」、「高さ (0.10/0.30)」、「正確さ (0.10)」の減点項目に則り、**厳密に減点**をする。
- つま先が伸びない、足が内向き、べた足の演技に対しては、「演技全体を通して身体の姿勢が悪い」の減点項目に則り、減点をする。
- 上記指針の内容に沿わない演技に対しては、第8章「一般欠点と減点表」、第13章 ゆか「芸術性と構成の減点」、「音楽性」、「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、明確に差をつける。

<Dスコアの問い合わせについて>

東京オリンピック代表選考競技会においては、FIG主催主要大会同様、審判長に書面で提出されたDスコアの問い合わせに対しては、審判長、上級審判によりビデオでの再検証を実施し、検証後のスコアを最終スコアとして採用する。

注：これまでは申し出のあった技のみを検証し、最終的なスコアを確定していたが、審判長に書面で提出されたDスコアの問い合わせに対しては、演技すべてを検証するため、その結果によってはD審判が算出したスコアより低いスコアとなる場合もある。

◆代表選考会を除くすべての国内競技会◆

2021年の国内競技会では以下の2項目を採点上の最重要項目とし採点をします。

- ① 膝、つま先の緩みのない美しい姿勢での正確な技の実施
 - ② 高いDスコアの獲得を目指した演技構成
- *ただし、①を満たせていない実施に対しては厳密に減点をする。

各種目について

日本の現状を踏まえて望ましい演技として評価する方向性を以下のように示す。

<跳馬>

- Dスコアの高い跳躍技の実施
- 高さや距離を伴うスピード感のあるダイナミックな跳躍

【採点上の留意点】

- ダイナミックさに欠ける跳躍については、跳躍の大きさだけではなく、技の難易度から受ける迫力や雄大性などを加味し、第10章 跳馬「種目特有な実施減点」の「ダイナミックさに欠ける(0.10/0.30)」の減点項目に則り、明確に差をつける。
- 高い難度の跳躍技を奨励するが、各局面において著しい技術不良が見られる跳躍については、第8章「一般欠点と減点表」、第10章 跳馬「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、厳密に減点をする。(各競技会の主旨や出場する選手層を考慮し、それに応じた適切な評価をする。)

<段違い平行棒>

- 腕の曲がりや膝、つま先の緩みのない美しく伸びた体線での正確な技の実施
- 技の振幅が大きいダイナミックな演技
- 多様な空中局面を伴う技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できる演技構成

【採点上の留意点】

- 上記指針の内容に沿わない姿勢欠点のある実施に対しては、第8章「一般欠点と減点表」、第11章 段違い平行棒「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- け上がり、倒立などの基本技の姿勢においても注視し、膝やつま先の緩みが見られる実施や、身体の姿勢が悪い実施に対しては、第8章「一般欠点と減点表」、第11章 段違い平行棒「種目特有な実施減点」の「倒立、または振り上げ倒立の身体の姿勢が悪い(0.10/0.30)」の減点項目に則り減点をし、明確に差をつける。

<平均台>

- アクロバット系、ダンス系の技が正確で熟練された演技
- 立ち姿勢、つま先まで意識された常に美しい姿勢での演技
- 技の前の「調整」や「停止」のない流れのある演技
- 高いDスコアの獲得を目指した演技構成

【採点上の留意点】

- ダンス系の技は特に注視し、姿勢欠点のある実施、正確さに欠ける実施には「身体の姿勢の減点 (0.10/0.30/0.50)」、「高さ (0.10/0.30)」、「正確さ (0.10)」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- 頭部や胴体、肩、腕の位置が悪い、つま先が伸びない、足が内向き、つま先立ちでの運動や動きに欠ける演技に対しては、「演技全体を通して身体の姿勢が悪い」の減点項目に則り、減点をする。
- 上記指針の内容に沿わない演技に対しては、第8章「一般欠点と減点表」、第12章 平均台「芸術性と構成の減点」、「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、明確に差をつける。

<ゆか>

- アクロバット系、ダンス系の技が正確で熟練された演技
- 立ち姿勢、つま先まで意識された常に美しい姿勢での演技
- 演技面を大きく使い、流れのあるダイナミックな演技
- 観衆を魅了することができる芸術作品として完成度の高い演技
- 高いDスコアの獲得を目指した演技構成

【採点上の留意点】

- ダンス系の技は特に注視し、姿勢欠点のある実施、正確さに欠ける実施には「身体の姿勢の減点 (0.10/0.30/0.50)」、「高さ (0.10/0.30)」、「正確さ (0.10)」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- つま先が伸びない、足が内向き、べた足の演技に対しては、「演技全体を通して身体の姿勢が悪い」の減点項目に則り、減点をする。
- 上記指針の内容に沿わない演技に対しては、第8章「一般欠点と減点表」、第13章 ゆか「芸術性と構成の減点」、「音楽性」、「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、明確に差をつける。

【跳躍や演技を試みなかった場合の国内対応】

国内競技会においては、従来通り、緑ライトの点灯または D1 審判員からの演技開始の合図の後、選手が D 審判員に挨拶をし、跳躍板や器具に触れてから再び挨拶することで 0.00 点として扱うこととする。(すべての種目)

【落下による中断時間中に止血が必要であると判断された場合の国内対応】

国内競技会においては、選手が器械から落下した際、演技続行の意志はあるが、止血が必要な状態であると医師または審判長が判断した場合、落下による中断時間（UB30秒、BB10秒）を超えて演技を中断しても減点なしで演技を再開することを認める。落下による中断時間（UB30秒、BB10秒）は、止血後から計時を始める。ただし、演技続行できないような怪我と医師が判断した場合は、この限りではない。（状態によっては演技続行不可と判断されることもある）

付録

【タイブレークの基準について】

*この規則は、FIG 競技規則によるオリンピック、世界選手権等 FIG 主催の競技会に向けた規則です。国内の競技会においては、各競技会の主催団体によって、この規則を準用または参考にし設定をしてください。

競技規則 FIG Technical Regulations 2020（抜粋）

第2章 体操競技に関する特別規定

第4条 4 タイブレーク ルール

第4条 4.1 予選

すべての決勝への資格取得：

同点の場合、どの順位においても、以下の通りの基準で順位を決定させる：

第4条 4.1.1 個人総合決勝のための予選

同点の場合、個人総合決勝の予選のどの順位においても資格取得にむけてのランキングは以下の基準で決定される：

1. 最終得点のうち、男子は得点の高い5種目の合計、女子は得点の高い3種目の合計の得点が高い選手が上位となる（それでも同点の場合は、男子は得点の高い4種目、3種目、2種目、1種目の合計、女子は得点の高い2種目、1種目の合計の得点）
2. さらに同点の場合は、すべての種目のEスコアの合計が高い選手が上位となる
3. さらに同点の場合は、すべての種目のDスコアの合計が高い選手が上位となる
さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

第4条 4.1.2 種目別決勝のための予選

同点の場合、どの種目、どの順位においても、跳馬を除き、種目別決勝のための資格取得にむけてのランキングは以下の基準で決定される：

1. Eスコアが高い選手が上位となる
 2. Dスコアが高い選手が上位となる
- さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

跳馬の種目別決勝のための予選における得点が同順位であった場合、どの順位においても資格取得に向けてのランキングは以下の基準で決定される：

1. 最終スコアを算出する前の2回の跳躍のスコアのうち、最も高いスコアをもつ選手が上位となる
 2. 2回の跳躍のうち、どちらか一方のEスコアが高い選手が上位となる
 3. 2回の跳躍のうち、どちらか一方のDスコアが高い選手が上位となる
- さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

第4条 4.1.3 団体決勝のための予選

同点の場合、団体総合決勝の予選のどの順位においても資格取得にむけてのランキングは以下の基準で決定される：

1. 最終得点のうち、男子は各種目のチーム得点の高い5種目の合計、女子はチーム得点の高い3種目の合計の得点が高いチームが上位となる（それでも同点の場合は、男子は得点の高い4種目、3種目、2種目、1種目の合計、女子は得点の高い2種目、1種目の合計の得点）
- さらに同点の場合は、どちらのチームも同じ順位とする。

第4条 4.2 決勝

第4条 4.2.1 個人総合決勝

同点の場合、個人総合決勝のどの順位においても、ランキングは以下の基準で決定される：

1. 最終得点のうち、男子は得点の高い5種目の合計、女子は得点の高い3種目の合計の得点が高い選手が上位となる（それでも同点の場合は、男子は得点の高い4種目、3種目、2種目、1種目の合計、女子は得点の高い2種目、1種目の合計の得点）
 2. さらに同点の場合は、すべての種目のEスコアの合計が高い選手が上位となる
 3. さらに同点の場合は、すべての種目のDスコアの合計が高い選手が上位となる
- さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

第4条 4.2.2 種目別決勝

最終得点が同順位であった場合、すべての種目のどの順位においても、跳馬を除き、ランキングは以下の基準で決定される：

1. Eスコアが高い選手が上位となる
 2. Dスコアが高い選手が上位となる
- さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

跳馬 種目別決勝

種目別決勝における最終得点が同順位であった場合、どの順位においてもランキングは以下の基準で決定される：

1. 最終スコアを算出する前の2回の跳躍のスコアのうち、最も高いスコアをもつ選手が上位となる
 2. 2回の跳躍のうち、どちらか一方のEスコアが高い選手が上位となる
 3. 2回の跳躍のうち、どちらか一方のDスコアが高い選手が上位となる
- さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

第4条 4.2.3 団体決勝

同点の場合、団体総合決勝のどの順位においても、ランキングは以下の基準で決定される：

1. 最終得点のうち、男子は各種目のチーム得点の高い5種目の合計、女子はチーム得点の高い3種目の合計の得点が高いチームが上位となる（それでも同点の場合は、男子は得点の高い4種目、3種目、2種目、1種目の合計、女子は得点の高い2種目、1種目の合計の得点）
- さらに同点の場合は、どちらのチームも同じ順位とする。

【マークをつける位置の基準について】

採点規則2.3.2 競技の服装

F) 現行の FIG 規定に従い、自国のマークまたはエンブレムをレオタード／ユニタードにつけなければならない。

2017-2020 FIG 広告規定および競技服装 抜粋

第6章 国のマーク

マークの表示は以下のとおりに付ける：

レオタード／ユニタード：美観を損なわない場所ならばどこに付けてもよい。

チームの場合、すべての選手のマークは同一でなければならない。